

天井桟敷の人々

Les Enfants du Pradis

鑑賞日 2017・5・22

制作 1945年 仏 モノクロ 上映時間 190分
公開 1945年(仏) 1952年(日本)
監督 マルセル・カルネ
脚本 ジャック・プレヴェール
出演 ジャン・ルイ・バロー、アルレッティ、ピエール・ブラッスール、
マルセル・エラン、ルイ・サルー、マリア・カザレス
受賞 ヴェネツィア国際映画祭特別賞、フランス映画史上ベストワン
日本キネマ旬報外国映画史上第1位(1980年)

(あらすじ)

第1部(犯罪大通り)

19世紀パリの歓楽街プールヴァル・デュ・タンブリの芝居小屋は連日鈴なりで、その大通りは多くの犯罪者や、ならずものが集まるため、「犯罪大通り」とも呼ばれていた。その街のパントマイム役者バチスト(ジャン・ルイ・バロー)はスリの嫌疑をかけられていた見世物小屋の美女ガランス(アルレッティ)を得意のパントマイムで助けた。それをきっかけにバチストはガランスに淡い恋心を抱くようになる。しかし、ガランスの周りには無頼派の作家ラスネール(マルセル・エラン)や若い俳優ルメートル(ピエール・ブラッスール)が取り巻き、内気なバチストはその愛を伝えられない。彼女を下宿に招いても、体を抱くこともできず、二人は別れる。その夜、ガランスはルメートルの誘惑に負けて身を任せてしまう。バチストの紹介で彼の芝居小屋に雇われたガランスはその美女振りが評判となり、社交界の花形、モンレー伯爵(ルイ・サルー)に見染められ彼の囲い者になる。

第2部(白い男)

5年後、傷心を乗り越えたバチストはパントマイムの名手となり、座長の娘ナタリー(マリア・カザレス)と結婚し、一児をもうけていた。ルメートルも一流の役者となり、ラスネールも大物の悪人となっていた。そこにガランスがモンレー伯爵と英国から戻ってきて、毎夜バチストのパントマイムを見に来ていた。ガランスの恋の相手がルメートルと勘違いした伯爵は、ルメートルに決闘を申し込むが、伯爵を憎んでいたラスネールに殺される。バチストは思い出の下宿でガランスと会い、初めて結ばれた……

(解説)

マルセル・カルネ監督がドイツ占領下のフランスで、3年3カ月の歳月をかけて、製作した超大作。フランス映画界の至宝といわれる名作である。ハリウッドに逃げずにフランスに留まったフランスの映画人が結集した作品で、1990年、フランスのテレビ局主催の投票で、フランス映画の第1位に輝いた。監督、マルセル・カルネ、脚本ジャック・プレヴェール、演ずるはジャン・ルイ・バローをはじめ、数多くの名優達、マルセル・カルネは、パリの歓楽街を舞台に、恋と芝居に生きた人々の人間模様を生き生きと描ききった。ガランスをはじめ登場人物は皆、自由に生き、恋し、苦しむ。人間の高貴さと自由をテーマとすること自体、映画人のレジスタンスであった。